

会期中、来館者からたくさんのご感想が寄せられました。その中から掲載を許可いただいたものをご紹介します。

教育者としての自分の立ち位置、言動を再構築する必要を感じた展示でした。若者に何を残せるのか人生の課題です。 (静岡県 60代)

毎年非常に楽しみにしております。極めて大きな意義のあるイベントで、大学の誇りの一つです。 (京都市 30代 本学教職員)

自分は人種差別について大学に入って初めて詳しく勉強するようになり、深く知りたいと思いました。現在にも残る人種差別について、歴史を掘り下げて見ることから始めようと、この展示を見て改めて思いました。

(京都市 10代 文1回生)

直視するのがつらくなる現実が世界には多く散在している、ということを見つめるために毎年見に来ています。続けていってください。 (京都市 40代 主婦)

心が痛んだ。写真で見るよりも実際の現場を目のあたりにする方が苦しいはずで、報道している人たちはそれを断片的にしか伝えられないことをもどかしく思っているんだろうなと思った。 (大阪府 10代 本学学生)

自分とは無関係に思えられる紛争に巻き込まれ、娘を亡くした父の目にうつるのは誰かに向けられた憤りではない。いきなり訪れる死は、彼らにとって当たり前のような現実になっているように見える。彼らだけでは何ともできない現実に全てを諦めようとする時、最もの夢をなくして感じる虚しさに改めて現実を直視しているような…何とも言えない悲しさだけがうつっている。

(大阪府 20代 国際関係4回生)

あまりにも衝撃的過ぎた。前回の特別展の数倍も戦争をリアルに見れた。

初め直視もできなかった。 (京都市 20代 理工4回生)

衝撃的な写真が多く、興味深かったです。 (大津市 10代 本学学生)

日本という恵まれた空間で育ってきた私がすごく申しわけない気持ちになりました。難民で避難してきた子どもたちが疲れて外で寝ている写真にとても心が痛くなりました。

(京都市 10代 本学学生)

自分の無知を思い知らされた。 (京都市 10代 産業社会1回生)

世界報道写真展ということで、様々なジャンルの世界の報道について学べて良かった。自分は女性なので、やはり、女性に関するニュースがとても印象に残っている。中でも、米兵にレイプをされて、その後も後遺症によって苦しめられている人が多く居るといことがとても印象的だった。

(京都市 10代 産業社会1回生)

世界で起こっている様々な現実をつきつけられ、自分自身が考えさせられました。

(京都市 10代 本学学生)

最初のほうに、インパクトが強い写真が多く、少しとまどいました。この展覧会にこない、リアルな世界を感じるができない生活を送っている、貴重な体験だと感じます。

(静岡県 20代 公務員)

写真展は初めてだったが、ニュースでは取り上げられない世界の人々の一場面を対象者に寄り添って切り取られていてとてもストレートなインパクトがあった。

(30代 院生)

地球のうらでおこっている事。こんな状況で育った子供。みんな、平和に、生きたいだけ。生きるのに必死。物にあふれた私達の生活。プライドのかたまり。自慢…。  
かなしくなる。 (30代 Photographer)

衝撃的な写真が多く、興味深かったです。 (大津市 10代 本学学生)

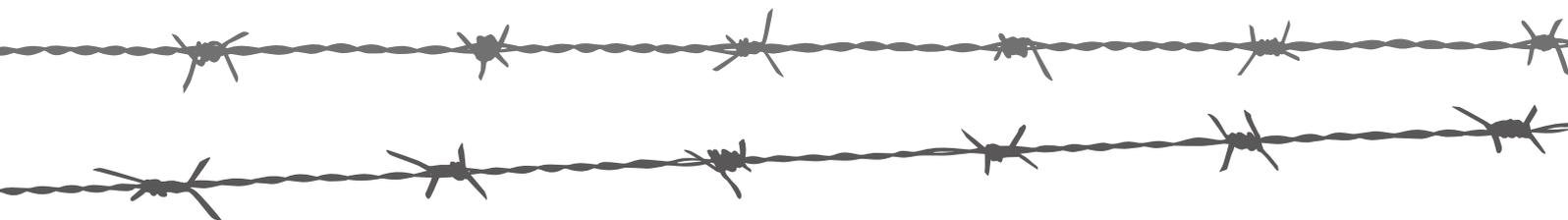
世界報道写真展ということで、様々なジャンルの世界の報道について学べて良かった。自分は女性なので、やはり、女性に関するニュースがとても印象に残っている。中でも、米兵にレイプをされて、その後も後遺症によって苦しめられている人が多く居るということがとても印象的だった。 (京都市 10代 産業社会1回生)

世界で起こっている様々な現実をつきつけられ、自分自身が考えさせられました。  
(京都市 10代 本学学生)

何とも人間の弱さを、強さと悲しみを、残酷さを、写しだすことのすごさを新しく感じました。なによりも人も動物にも「生」がいかにか大切に切々と訴えるものとなりました。  
(京都市 60代 自営業)

何度かご案内をいただき、今回初めて来館することができました。今日、世界各地で起きている様々なできごとを写しとった写真を見て、新聞・TVなどの報道で知っている情報とは別？の印象・感動を覚えた。動く映像とともに、静止画像であるスケール？の偉力に改めて心を動かされた。貴重な機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(京都府 70代以上)



写真展は初めてだったが、ニュースでは取り上げられない世界の人々の一場面を対象者に寄り添って切り取られていてとてもストレートなインパクトがあった。 (30代 院生)

社会問題だけでなく、生物的なものや環境の写真もあってよかった。 (奈良県 20代 大学生)

非常によかった。 (60代 大阪府)

書店で雑誌・本を見ているのとの差がほしい。2階と関連がある「テーマ」だと思います。時間帯で、学生さんの説明があるのもっといいものになると思う。 (京都府 40代)

戦争について…子供達を巻き添えにしてこの様な悲惨な事がいつまで続くのか…  
1日も早く平和を祈ります。 (滋賀県 60代 自営業)

いつも意義ある企画に頭が下がります。日本の報道がもっとまともにこうした映像を報道してきたならば、この国が今、再び武器を持つなどとは思わないでしょう。立命館だけではなく、あらゆる日本の学生たちがここへ足を運んで考えてくれるよう望みます。 (愛知県 60代 主婦)

中東地域での写真、難民の写真がとても増えたと思う。大人、子どもかかわらず写っているほとんどの人の目の色が消え、かなしみに暮れている様子に心が痛んだ。破壊された町の写真を見ると、同じ地球とは思えない。そして、そこにいる人々の写真を見ても、平等に扱われるはずの人間であるのに、自分との境遇の違いに衝撃を受けた。 (京都市 20代 学生)



難民についての写真が多くあり、様々な視点からヨーロッパで今起きている事態を知り、考えることができました。どこか他人事のように感じている部分があったため、今回の写真を見て、難民だけでなく動物の絶滅や宗教問題について何も知らなかったんだと感じました。もっと色々な事を調べて自分の立場で出来ることを考えたいと思います。

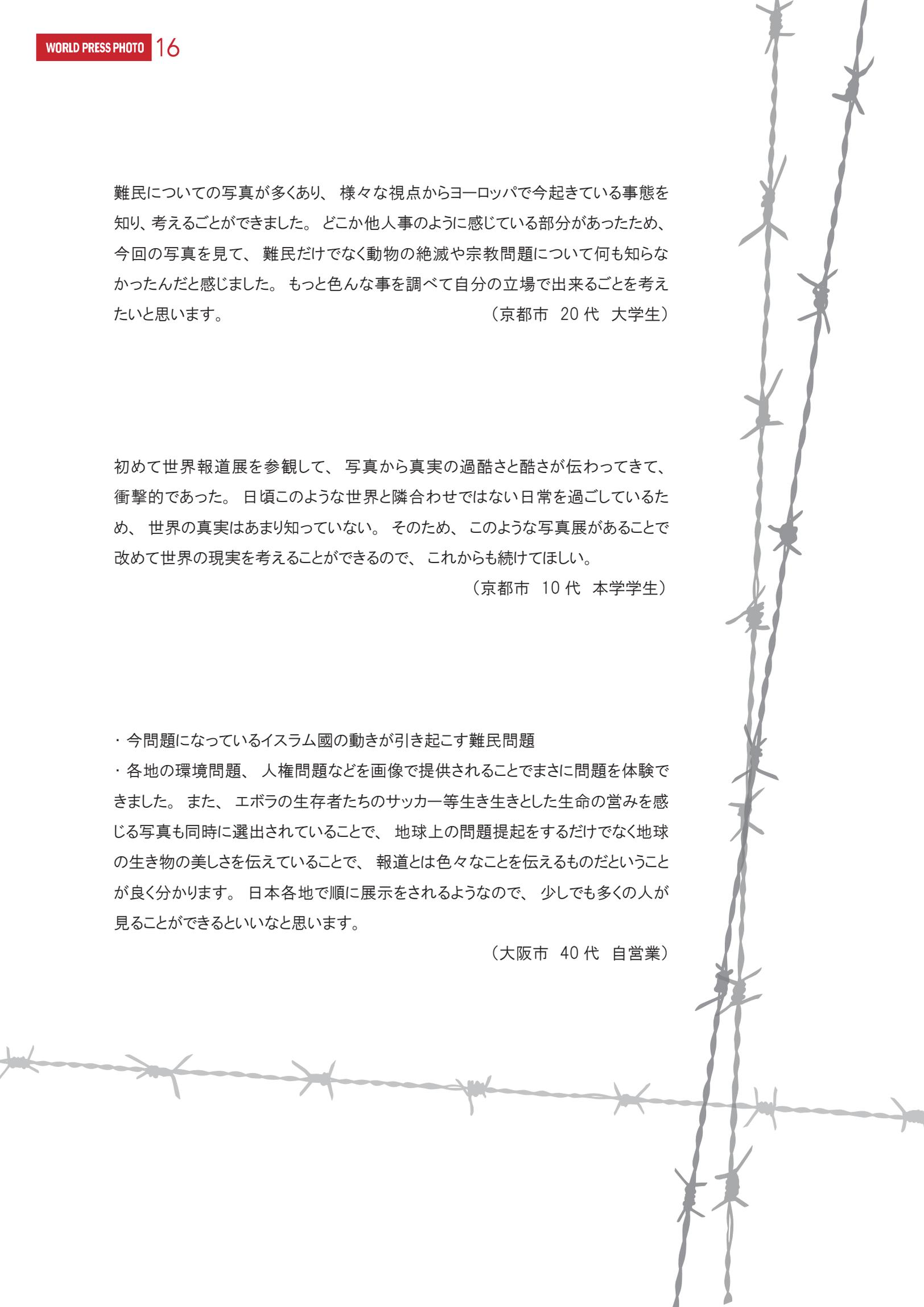
(京都市 20代 大学生)

初めて世界報道展を参観して、写真から真実の過酷さと酷さが伝わってきて、衝撃的であった。日頃このような世界と隣合わせではない日常を過ごしているため、世界の真実はあまり知っていない。そのため、このような写真展があることで改めて世界の現実を考えることができるので、これからも続けてほしい。

(京都市 10代 本学学生)

・ 今問題になっているイスラム國の動きが引き起こす難民問題  
・ 各地の環境問題、人権問題などを画像で提供されることでまさに問題を体験できました。また、エボラの生存者たちのサッカー等生き生きとした生命の営みを感じる写真も同時に選出されていることで、地球上の問題提起をするだけでなく地球の生き物の美しさを伝えていることで、報道とは色々なことを伝えるものだということが良く分かります。日本各地で順に展示をされるようなので、少しでも多くの人が見ることができるといいなと思います。

(大阪市 40代 自営業)



展示されている写真一つ一つが昨年や今年撮影されたもので、非常に現実を間近で感じることができた。ニュースや新聞から入ってくる情報と、この写真から受け取るものとは全く違う。全てを報道することはとても難しいと思うが、写真は最も人の感心を寄せつけられ、情報を受けとる確かな証拠になる大切な情報源の一つだと思った。

(滋賀県 20代 大学生)

もっと学校の授業などに利用して欲しい。

(京都市 60代)

今まで平和であると思ってきた世界が実は様々な非平和的な要素を持っていたことに気づき、心が重くなった。写真の中では、悲惨なものが多かったが、そのような状況であるものは、ほとんど発展途上国であり、先進国のものは無かった。社会の構造的な要因によって先進国に住んでいる人々により、途上国の人々は抑圧されたり、自国内で暴力を受けたりしている。このようなことを解決し世の中を今より平和にさせていくためには社会構造的な改善や福祉制度の確立が必要であると感じた。特に空爆で大きな穴があいていた中国の写真は印象的だった。

(京都市 20代 国際関係4回生)

展示を見るだけでは世界は変わらない。これを見てどう行動するかが重要であると感じた。

(大阪府 20代 経営3回生)